

## 「アーメン」

『アーメン』は、「支持する」「信頼する」「確かである」というヘブル語の動詞から来る言葉で、「真に」「確かに」「真実に」「その通りになりますように」という副詞として使われています。

旧約時代においては、人が語った言葉に対して同意、承認の意味としての応答であったり、祭儀の中で祭司や司式者の祈祷、宣言、頌栄などに対して、誓約、告白、讃美する意味として唱えられてきました。(参考 申命記 27:15~26、ネヘミヤ 5:13、ネヘミヤ 8:6、詩篇 41:13)

新約においても、そのような応答的な性格が受けつかれています。(参考 ローマ 1:25、黙示録 1:6~7)

マタイによる福音書 5章 18節、26節、そして 6章 2節に、主イエスが「はっきり言っておく」と言われたところがありますが、ここで「はっきり」というのは、原語では「アーメン」が繰り返されている言葉になっています。神的な権威を表す言葉です。これは神の独り子であり、神ご自身である方としての独特な用法です。

イザヤ書 65章 16節に書かれている「真実の神」での「真実」は「アーメン」という言葉です。そして、黙示録 3章 14節の「ラオディキアにある教会の天使にこう書き送れ。『アーメンである方、誠実で真実な証人、神に創造された万物の源である方が、次のように言われる。』」と書かれてありますが、ここでの「アーメンである方」はイエス・キリストです。つまり、主イエス・キリストは、真実な方、真理であることを示しているのです。

イエス・キリストの十字架での贖いと復活によって、私たちは父なる神様に「アーメン」と言うことができました。そこには救われた者としての感謝と、来るべき将来への希望が込められている私たちの告白であるのです。そして、「そのとおりにになりますように」という願いをもって、今日を生きることができるのです。

イエス・キリストが教えてくださった「主の祈り」は「アーメン」で終わります。

しかし、その「アーメン」は主の祈りの終わりだけではなく、始まりであり、基礎であると言えるでしょう。

### \*共に祈りましょう。

- ・「アーメンである方」、私たちの救い主イエス・キリストに感謝しましょう。
- ・「アーメン」と祈るよう独り子イエスを与えてくださった神様をほめたたえましょう。
- ・神様のみ言葉に、「アーメン」と告白しながら、その通りに従っていく私たちでありますよう祈りましょう。

※次回からは「十戒」を学びます。